

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293500078		
法人名	(有)シーシー商会		
事業所名	グループホーム白寿		
所在地	八街市東吉田561-74		
自己評価作成日	令和1年11月5日	評価結果市町村受理日	令和2年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和1年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・優しく穏やかに笑顔で、職員一同取り組んでいます。 ・利用者の健康状態を常に把握し医療機関と連携を取り24時間体制の支援を行っています。 ・町内会の催し、市の催しに参加し楽しく交流させて頂いています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念である「いつも笑い声の聞こえるアットホームな暮らしを」を日々実践しており、利用者一人ひとりの意向を大切に、利用者が安心と尊厳をもって生活できるような支援に努めている。町内会に加入して地域の行事に参加するなど、地域との交流を大切にしており、近隣の農家から野菜の差し入れなどもあり、メニューに取り入れて、利用者からも喜ばれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と実践について利用者さんお一人一人の状況に合わせた対応に向けてケアを行っています。	ホームの理念は、職員が意識できるように、エントランス、事務所、フロアに掲示している。また、朝、夕の申し送り時に職員間で共有し、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事、公民館での催しを大切に、緊急時など連絡できる様な交流を持っている。	町内会に加入し、盆踊りやお正月行事などに参加している。地域との関係性が良く、日常的に野菜の差し入れや、避難訓練、災害対策の話し合い等、近隣住民との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内のイベント参加の時、認知症の話や御家族や近所の相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族のご要望、自治会の取り組みに応えるよう検討し回答を出し理解を頂く。	運営推進会議は地域包括支援センター、民選委員、地域の老人会、法人他施設などの参加で開催している。	今後は、利用者や利用者家族などに働きかけて、参加を促すこともよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事がある時は市の関係者の方々に相談・指導を頂いています。	市が主催する「ケアマネジャー会議」に参加したり、運営推進会議には地域包括支援センターの参加がある。また、市の担当課とは日頃から連絡をとり相談に乗ってもらうなど、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一丸となり身体拘束の無いケアを実践しています。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、「身体拘束ゼロの理念」を掲げている。法人グループで身体拘束廃止委員会を立ち上げて、研修なども実施しながら実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員で研修を受け意見を出し虐待を見過ごされる事の無い様防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談を受けた時、又は必要性があると思われる場合は関係者と話し合いをして支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時管理者が契約内容、重要事項について説明し安心して利用して頂けるようにしている。 体験入所も行っていきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の訴えを傾聴し御家族の御要望・ご意見を伺いながら運営しています。 玄関先にご意見箱を設置しています。	管理者が中心になり、家族の面会時は、声をかけて意見を聞くようにしている。意見箱を置くなど、意見が言いやすい環境も作っている。また、利用者には、日ごろの会話から要望などを聞き取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	知識や仕事、介護への意識を少しずつ深め勉強会・意見の交換などして職員の質の向上に努めている。	管理者は会議の場だけでなく、日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気をつくるように心がけている。働き方に関する相談などもあり、意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を作り研修など参加し向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員共に研修に行ける体制を作りスキルアップしながら進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が研修会への参加時、他施設勤務者との意見交換、電話、文章などで連絡を取り合っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し困っている事等、変容する事で安心した生活と信頼関係が築ける様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望をよく話し合い傾聴しながら安心して入所して頂けるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	把握しホームに馴染んで頂くこと。家族の要望も取り入れ本人とケアプランを立て実施する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を引き出し自分で出来る事は自分で行って頂き出来ない処の介助をさせて頂きます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族だけでなく親戚や友人の面会をお願いし声掛けをし縁が途切れない様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の言付け、電話でのお話、直接的、間接的に支援するように努めている。	電話の取り継ぎや、手紙の支援をおこなっている。知人の訪問なども歓迎している。また、馴染みの理容店で髪を切る利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の状況を把握し、職員が間に入り、支え与える様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要事項は報告・又ご相談には積極的に対応する様にし連絡を取り合える様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から関わりを重視し信頼関係を築いて行くことでご本人様の悩みや不安を知り、生活上の意向や希望を把握出来る様に努めています。	経験豊富な職員が多く、利用者は入居後すぐにホームの生活に馴染み、落ち着いて暮らしている。職員は日常の生活の中で、話をしたり様子を見たりしながら、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、生活歴や今までの暮らし方の状態等出来るだけ詳しくお聞き出来る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のペースに合わせ一日を過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望に添ってご家族の希望を取り入れ毎月モニタリングを行って介護計画をたてます。	利用者や家族の意向を踏まえ、職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。介護計画は定期的に見直し、緊急の場合は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェック・体調変化の確認・職員間情報の共有をしながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望を聞いたり、毎月の行事を工夫することに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区会に入会しており回覧板を通して催しなどに参加し楽しみが出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的にはご家族様同行頂き都合がつかない場合は職員が立ち会います。	ホームの協力医が月2回往診に来て、利用者の健康管理をおこなっている。専門医などの受診は家族に対応を依頼しているが、場合によっては職員が同行している。この他、歯科医も定期的に来ており、必要に応じて処置をおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックで日々の変化をチェックし主治医に報告し必要に応じて指示を受けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態に応じてご家族・医師・ソーシャルワーカーに相談しながら早期退院が出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前にご家族やご本人にご意向をお伺いし主治医に報告し協力を得ています。ご本人様にとってよい対応・支援させていただいています。	入居時の説明で看取りを行っていないことを伝え、理解を得ている。利用者の状態が悪くなった場合は、かかりつけの医師を通じて病院入院の手続きをおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の既往症を把握し医師に急変時に備えて対応の仕方を確認し職員に受診記録を通して伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消火避難訓練を実施、緊急時に慌てない様指導を受けています。	年2回、消火、避難訓練を実施している。今年度の風水害では建物が被災し、停電になり、行政とは停電解消後やっと連絡がとれた。行政、地域含めめた防災訓練が計画されており、参加を予定している。	今回の経験をもとに、地域や行政との連携を含めて見直し、あらゆる災害を想定して対策に取り組むことが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から尊厳を持って接するよう心掛けています。	利用者への呼び方はさん付けを原則としている。訪問当日は、職員が利用者の要望を否定することなく、寄り添いながら対応する様子を見ることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かり易い説明、返事のしやすい問い掛けを心掛けています。自立した日常生活と自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物その他の要求に関して受け止め納得できる対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人らしさを尊重し日頃の服装にも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け利用者様の能力に合ったことを行って頂いています。	調理は担当職員が交代でおこなっている。法人を通じて食材を購入しているが、地元の農家からも様々な季節の野菜の差し入れがあり、食事に取り入れて、食事を楽しめるように取り組んでいる。当日も地元名産の落花生とお芋のおこわが供された。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の持病の状態に合わせて摂取量管理を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状況に応じ口腔ケアを支援し清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄記録を基に排泄パターンを考え声掛け・誘導・介助にて支援している。	運動や食事で自然の排泄につなげるように心がけている。また、パッドなども活用しながら、排泄パターンを把握して誘導するなど、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に基づいて定期的な排便を確認し食事や水分量にも考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	見守りしながら出来ない部分のみ支援するようにしている。	週2回の入浴を支援しており、状況に応じて二人介助として、安全に入浴できるようにしている。爪切りや髭剃りなど、整容も兼ねて支援をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のその日の健康状態により室温の温度調節や寝具の調節をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食後手渡しでお水・お薬を渡し目の前で服薬していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花瓶の水替えなどその方々の残存能力など活用して出来ることをして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に添って散歩を楽しんだり買い物同行したりご家族と外出出来る様支援している。	盆踊りや敬老の日のイベントなどで外出する他、家族と外食に行く利用者もいる。また、近隣の散歩などにも出かけている。ホームでは、今後、外出の機会を増やしたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてスタッフ同行にて買い物出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・友人からの電話は取り次ぎ、手紙の代筆・希望があれば投函のお手伝いもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で、年間を通して季節感を採り入れた飾りや、催しの時の写真など掲示し、心豊かになれるよう努めています。 トイレ・浴室は明記しています。	共用空間は落ち着いた居心地のよい環境となっている。利用者はソファや椅子など思い思いの場所で過ごすことができる。浴室やトイレも清掃が行き届いており、清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファや一人掛けの椅子を設置しています。 くつろぎや気の合った人とお話出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談して、使い慣れたタンス・気に入っている洋服・布団・枕等本人が居心地よく過ごせるように工夫をしています。	居室は、それぞれタンスやテレビなどを持って来ており、写真や置物を飾るなどして、居心地よく過ごせるような部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、トイレ・浴室に手すりを設置場所が分かるように名札を付け、玄関にも椅子を用意して、安全に靴の脱ぐ・履くが出来るように工夫しています。		